



第23回 環境美化教育最優秀校 4校決定

食環協主催事業

地域美化活動が世界にもたらす笑顔

文部科学大臣賞

秋田県大仙市立
大曲南(おおまがひみなみ)中学校

田畑が広がる豊かな自然環境の下で、20年以上にわたり地域に根差した活動を行っている。中でも活発なのが、保護者が行うアルミ缶・古紙回収だ。生徒が事前に告知のチラシを作り、地域の各戸に

配布し、当日は、高齢者宅に出向き回収を手伝う。

また、校区の2つの小学校とともに道路周辺の清掃に励んだり、地域憩いの場である「川港親水公園」で、住民と協働で美化活動も率先して行ったりしている。

こうした取り組みがベースとなり、ユネスコスクールに認定されてからは、ESD(持続可能な開発のための教育)の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに、活動を深化させて

いる。食育では、給食残さず作った肥料で、住民の指導を得ながら野菜栽培などに挑む。地域の主産業が農業であることを再認識した生徒は、近隣のスーパーで、食品ロス防止状況の聞き取り調査をした。さらに、環境問題を扱った講演会を開催、世界を舞台に活躍する講師が現状を報告。その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きている問題を自分事として捉えるようになった。2022年度は、気候変動下で起きているキリバスの現

地域を支える環境保全で広がる視野

①

状をテーマにした講演会を実施。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感した。身近な川を清掃することで、海がきれいになり、キリバスの幸せにもつながることを意識するようになった。

佐藤美音(みのん)さん(中3)は、「国際社会の一員として、グローバルな視点から物事を実践していく」ということの大切さを、多くの人に発信していきたく」と意気込む。

「Think Globally, Act Locally」の精神が胸に刻まれている。

域の名所「玉松海水浴場」と「玉松台」の清掃活動で、全校生徒や老人クラブ、蓬田村漁協など総勢約150人が参加する村の一大行事だ。

乗ったことも、港に行ったこともない生徒がほとんどだ。小松蒼生(そうせい)さん(中1)は、「ホタテを獲るために、多くの漁師さんたちが協力している姿が印象に残りました」と振り返りながら、ホタテの養殖には海の環境づくりが大事であることを再認識し

住民と交流しながら取り組むことで、村民としての自覚が芽生える中、生徒は地域の基幹産業である漁業の体験学習も実施。漁協の協力の下、漁船で沖合に向かい、養殖ホタテの水揚げ体験を行った後、ホタテの選別法や生態を学ん

た。

また、蓬田村では農業も盛んでトマトの産地として名高い。トマト栽培農家の協力により農作業体験する過程で、良い土と水が欠かせないことを学んだ生徒は、地域の美化活動が村の支えや活性化に

つながることを体感している。同校は村で唯一の中学校で、生徒一人ひとりに寄せる住民の思いは熱い。この声に応えるべく、生徒は地域の財産を守り抜くという強い決意で挑んでいる。

雪印メグミ
印北海道バター
ードプロモト
ターとわたし
ン」を、1月
している。
バターの魅
識してもらお

清涼飲料やビールなどの飲料業界6団体で構成する公益社団法人食品容器環境美化協会(会長＝那須俊一)が、地域と協働で環境美化活動を行う小・中学校等を支援しようとした。環境美化教育優良校等表彰事業。23回を数える今年には、全国の都道府県より推薦された小・中学校等29校の中から、最優秀校4校が決定した。受賞校の優れた活動を2回に分けて紹介する。

*「第23回環境美化教育優良校等表彰式」は1月27日15時半から、浅草ビューホテル(東京都台東区)で開催される。

津軽半島に位置する同校では、海と山に囲まれた環境や地場産業を生かした活動を行っている。毎年、海開きの前に取り組むのが地

漁業体験通じ海の環境づくりを励む

農林水産大臣賞

青森県蓬田村立
蓬田(よもぎた)中学校



住民と交流しながら取り組む地域清掃活動



漁船に乗って養殖ホタテの水揚げ体験をする生徒



20年以上続くアルミ缶・古紙回収活動の様子



他国の現状を自分事として捉え視野が広がる生徒

北海道バターとバレンタイン

オリジナルグッズなどをプレゼント!

「雪印北海道バター」Eビッドコンテスト

期間: 2023/1/13 - 2/14

#バターとバレンタイン

ルを肥料にし使った「南(ンバーク)や0g相当の野菜リフレート